

モナコ公国は世界で2番目に小さな国ですが、ファッション界への話題の提供度はずば抜けて高い。F1グランプリにバラの舞踏会といった、富裕層が集まる各種社交行事に事欠かないためです。

モナコの華やかなイメージにさらなる貢献をしているのが、君主アルベール2世公の妻、シャルレーヌ妃です。アルベール2世は、ハリウッド女優のグレース・ケリーとレーニエ3世の長男です。

ジンバブエ出身のシャルレーヌ妃は正統派美女ですが、身長177センチで肩幅の広いアスリート体形。それもそのはず、妃は幼少期に移住した南アフリカで水泳の五輪代表選手になり、2000年のシドニー五輪に出場しました。アルベール2世もボブスレーで冬季オリンピックに出場経験の

Style アイコン

【シャルレーヌ妃】



ロイター

大胆で強い 新時代の女性

あるアスリート。オリンピック同士のカップルは11年に結婚、14年には双子のジャック公子とガブリエラ公女に恵まれています。

金髪ショートヘアのシャルレーヌ妃の装いは、保守的なロイヤルファッション群のなかにあつて、

あるアスリート。オリンピック同士のカップルは11年に結婚、14年には双子のジャック公子とガブリエラ公女に恵まれています。

モダンで斬新なので、目を引きまします。攻めすぎて前衛的な印象を与えるぎりぎりのところで優雅なフランスを保つという、ロックなエリガンスに貫かれています。

18年のF1グランプリの表彰式では「アクリス」の幾何学模様のス

ポーティードレスで登場。シャンパンをボトルから直接、豪快に飲むという体育会系。パフォーマンスを見せて大喝采を浴びました。昨年クリスマスシーズンには、半モヒカン刈りを披露。「ロイヤルファミリーにふさわしくない」という批判が殺到しましたが、シャルレーヌ妃は「これは私の選択ですから」とクールに一蹴。装いに対する批判にはびくともしません。

一方、コロナ禍では、お湯で何度も洗濯できる高機能素材を使ったマスクを作り、配布するという社会貢献活動も行いました。

意表をつく装いとチャームिंगな言動、大胆不敵な髪形で周囲を飽きさせることのないシャルレーヌ妃は、もともと保守的な世界に生きながら、21世紀の自由な女性の「強さ」の新しい形も見せてくれます。

(エッセイスト 中野香織)